

海外メンタルヘルスの現場からⅡ

(7) 今年の海外医療情報交換会に参加して

シンガポール日本人会クリニック

医師 日暮 真由美

10月24日にJOMFの海外医療情報交換会に参加させていただきました。今年は海外の医療現場から日本側へのぞみたいことというテーマでしたが、同じ東南アジアであっても国によってその様相は本当に様々で、とても勉強になった一日でした。

大変僣越ながら、シンガポール日本人会クリニック心療内科からの日本側へのぞみたいこととして、「企業内の医療関係者にぜひ現地へ来て見てほしい」というテーマでお話いたしました。そして、今回はデリー日本人会（インド）の体育会系ギター部の皆さんのご協力により、「インドでギター始めました」のすばらしい演奏を講演の中で御紹介させて頂くことができました。私のちゃちな講演だけでははなはだ役不足のところを、その演奏のおかげで現地の切実な思いが皆さまにも十分伝わったと感じられました。講演前は、環境整った日本に住まわれている皆様方にこの曲にこめられた思いがわかってもらえるかどうか、若干不安もありましたが、杞憂だったようです。曲そのものが本当に好評で、講演で聞いて下さった方がその後周囲の方にもどんどん薦めて下さっているようです。海外駐在に関わるお仕事をされている方にはどんな方にも、特に会社の社長さんにはぜひ！聞いてほしい一曲です。

(Youtube http://www.youtube.com/watch?v=gS_E_YcAwKA)

一方、情報交換会後の懇親会にて偶然同じ質問をたくさん受けました。それは、「インドと違ってシンガポールは先進国だから、今やもう駐在員の精神的ストレスは他のアジアの国に比べたら楽なのではないか？」という質問でした。実は、最近どうも日本側にはそう思われているのではないかと危ぶんでいたもので、あ～やっぱりそうなのかと腑に落ちました。

シンガポールは東南アジアの中ではダントツに先進国です。気候は別としても、衛生面、住居、人々のマナーなど、住みやすさ、生活環境はとても恵まれている。日本の物も簡単に手に入り、日本の教育も受けられる。だから駐在暮らしは楽に違いない。一方、昨今の日本企業の業績は厳しい。コストの高い日本人駐在員数は減らしてもっとローカルを育てて現地をまかせていくべき。シンガポール人は他アジア国と比べたら能力の高い労働者であり、育てるのも難しくないに違いない。だから、少ない日本人駐在員でも、環境のいい国だからがんばってやっていけるでしょ。というのが最近の傾向のようです。少し前ま

で複数名いた日本人駐在員数をぐっと減らしている事業所が増えているそうです。

ところが、そうはうまくいきません。元々オーバーワークしがちで、ローカル戦力の不足分を無言で補おうとしてしまう日本人ですから、社内駐在員数の減少がいかにダメージが大きいかは想像は難しくありません。一人駐在員になってしまうと本当に過酷で、本社とローカル社員との板挟みだけでなく、まるまる1年間ほとんど休日なしという労働状況の話は、聞いているだけでも具合が悪くなりそうです。

ということで、シンガポールは大丈夫でしょう、楽でしょうと日本側に思われることで人員削減など現地の仕事環境が厳しくなり、メンタルヘルス上はむしろとてもきつい状況になっている事例が目立ってきています。こんな実態も、日本の本社で健康管理をされている皆さんに来て実際に見てもらいたいと切に願っております。